

情報ヘッドライン (2014.08/25～08/29)

8/25	<p>13種類のがんを採血で診断するシステムの開発に着手 国立がん研究センターなど</p> <p>国立がん研究センターなど企業他 7 機関はこのほど、健康診断などでがんや認知症を簡便に検査できる世界最先端の診断機器・検査システムの開発に着手した。このプロジェクトでは、13 種類のがん（胃がん、食道がん、肺がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がん、大腸がん、卵巣がん、前立腺がん、膀胱がん、乳がん、肉腫、神経膠腫）およびアルツハイマー病などの認知症に関し、疾患の早期発見マーカーや医療現場で必要な疾患マーカーを検出するバイオツール技術を実用化し、1 回の採血で診断するシステムの開発を目指している。</p> <p>■関連サイト☎：http://www.ncc.go.jp/jp/information/press_release_20140818.html</p>
8/26	<p>5 大がんの年齢別初回治療方法・診断病期を初集計、公表 国立がん研究センター</p> <p>国立がん研究センターは 8 月 25 日、全国 397 のがん診療連携拠点病院における診療実態を把握するため、5 大がんの年齢別初回治療方法・診断病期などを集計した院内がん登録 2012 年集計報告を公表した。今回の集計結果は 633 施設 766, 123 症例（拠点病院 397 施設の全登録数は 613, 377 例、それに県推薦 236 施設分を追加）を網羅し、カバー率は約 80%となっている。</p> <p>登録部位は、2010 年からの 3 年間で上位 6 位（大腸・胃・肺・乳房・前立腺・肝臓）に変動はない。拠点病院のみで集計した 5 大がん（大腸・胃・肺・乳房・肝臓）の年齢別初回治療方法と診断時病期については、<u>胃がんと肝臓がんで 90 歳以上では約 50%が治療なし、肺がんでは約 60%が治療なし</u>となっていた。いずれのがんでも年齢が高いほど、薬物療法を含む治療が行われていない実態が明らかになった。</p> <p>■関連サイト☎：http://www.ncc.go.jp/jp/information/press_release_20140825.html</p>
8/26	<p>平成 27 年 4 月 1 日施行の登録販売者試験制度の改正点を公表 厚労省</p> <p>厚労省は 8 月 25 日、平成 27 年 4 月 1 日に施行される登録販売者試験制度の改正に関する概要を公表した。登録販売者試験の実務経験等の省令改正では、下記の点が見直しとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 受験に際しての<u>実務経験要件を廃止</u>（学歴等も廃止） ○ <u>管理者・管理代行者となるには、過去 5 年間のうち 2 年間の実務・業務経験が必要</u>。それまでの間は、管理者・管理代行者の管理・指導の下に実務に従事（配置については新懸けごとの管理者への報告を要件に単独での新懸けも可） ○ 管理者・管理代行者要件を満たす登録販売者と、それ以外の登録販売者を名札で区分 ○ 薬局等に、当該登録販売者の勤務経験の記録・保存義務を課すとともに、求めに応じた勤務経験の証明を義務付け（管理者となる際に使用） <p>■関連サイト☎：http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/ippanyou/131218-1.html</p>

情報ヘッドライン (2014.08/25～08/29)

8/27	<p>平成 25 年度医療費 39.3 兆円、1日当たり医療費の伸び率は 3.1% 厚労省</p> <p>厚労省は 8 月 26 日、平成 25 年度医療費の動向を公表した。本資料における医療費は医療機関受診の推計値であり、労災・全額自費等の費用を含まない概算医療費として、国民医療費の約 98%に相当する。</p> <p>平成 25 年度の医療費は前年度比約 0.8 兆円増の 39.3 兆円、診療種別では、入院 15.8 兆円（構成割合 40.2%）、入院外+調剤 20.6 兆円（同 52.6%）、歯科 2.7 兆円（同 6.9%）となっている。1 日当たり医療費の伸び率は 3.1%、診療種別にみると、入院 2.0%、入院外+調剤 4.4%、歯科 0.3%となっている。</p> <p>■関連サイト☎：http://www.mhlw.go.jp/topics/medias/year/13/index.html</p>
8/27	<p>平成 25 年度調剤医療費、処方せん 1 枚当たり 8,857 円、後発品調剤伸びる 厚労省</p> <p>厚労省は 8 月 26 日、平成 25 年度版の調剤医療費（電算処理分）の動向を公表した。平成 25 年度の調剤医療費は 6 兆 9,933 億円、伸び率は対前年度同期比 6.1%であった。処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 8,857 円（伸び率+5.4%）、処方せん発行元医療機関別の内訳は病院が 15,097 円、診療所が 6,958 円となっている。</p> <p>調剤医療費の内訳は、技術料が 1 兆 7,371 億円（同+2.1%）、薬剤料が 5 兆 2,444 億円（同+7.5%）、特定保険医療材料料が 118 億円（同+5.4%）であった。薬剤料のうち後発医薬品は 5,999 億円（同+21.0%）、後発医薬品割合は平成 25 年度末で新指標における数量ベースは 51.2%（旧指標 33.2%）となっていた。</p> <p>■関連サイト☎：http://www.mhlw.go.jp/topics/medias/year/13/gaiyou.html</p>
8/28	<p>平成 27 年度介護報酬改定に向け、通所系・訪問系サービスについて議論 厚労省</p> <p>厚労省は 8 月 27 日、社会保障審議会介護給付費分科会を開催し、平成 27 年度介護報酬改定に向けて、通所系サービス、訪問系サービス等について議論した。総論では居宅サービスの機能と連携の在り方、各論では通所サービスの機能として、認知症や重度者対応の必要性とその評価、看護職員の配置等が論点に挙げられた。</p> <p>■関連サイト☎：http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000055590.html</p>
8/29	<p>介護人材の確保は最重要課題、今後取り組むべき 11 の方向性を整理 厚労省</p> <p>厚労省は 8 月 26 日、福祉人材確保対策検討会における「介護人材確保の方向性について～中間整理メモ～」を取りまとめて公表した。介護人材は、地域包括ケアシステムの構築に不可欠の社会基盤であり、その確保は最重要の課題である。「量」と「質」の好循環の確立に必要な今後取り組むべき 11 の方向性が整理された。</p> <p>■関連サイト☎：http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000055433.html</p>

◀Web サイトより資料をダウンロードする場合の注意点▶

掲載サイトの URL リンク切れの際はあしからずご容赦願います。なお、掲載 URL が長い場合リンクが不十分（アドレス途中認識）になる場合もございますので、URL の右端をクリックしてください（Adobe Reader 最新版推奨）。